



「三世代交流昔遊びイベント」

和木町では毎年6月に「すくすくフェスタ」と「福祉まつり」を同時開催し、未就学のお子さんから高齢者の方まで、一緒に楽しめるイベントを行っています。

今年は、町内の達人たちをお願いして、「三世代交流昔遊び体験」を行いました。けん玉や竹鉄砲、お手玉など8種類を用意しました。

それぞれの遊び場所で、地域の方々に遊び方やコツなどを教えていただいたり、技を見せていただきました。子どもたちよりも夢中になる親御さんたちの姿も見受けられました。約100人の参加があり、これを機に、世代を越えたつながりの輪を作っていきたいと思います。

和木町 土井 佳子



「蝶の駅」を目指して

神秘的蝶アサギマダラは、日本海岸沿い約1500キロを春は北上、秋は南下していますが、休憩場所として長浜パーキングへの飛来が確認されるようになりました。

アサギマダラは秋には「サワフジバカマ」に集まるため、2015年6月、長浜パーキングに70株を移植、翌年は200株以上を公共施設等の花壇などにも移植しました。

春には「スナビキソウ」に集まるので、2017年に栽培を始め、今年は移植場所を広めました。

この結果、春と秋にアサギマダラが飛来するようになり、「蝶の駅」になりました。

蝶が自然の中で共存し、植物の連鎖ができて、地球上に温かみのある、やさしい環境づくりを目指しています。

阿武町 清水 教昭

私の母は看護師として働いていましたが、父が単身赴任でほとんど家にいなかったため、母一人で私たち3人を育ててくれました。最終的には看護師長まで務め、仕事・家事・子育てでとても忙しい日々を送っていました。

そんな母が、料理は一切手抜きをしなかったことを覚えていきます。手抜きしないどころか、作れるものは何でも作り、季節ごとの料理、私たちがのおやつも作ります。毎年、うっきょうや梅干を漬け、果実酒や果実ジュ

Column



つながり

リレーコラム

母が営む小さな喫茶店は、98%がモーニング目当ての常連さん。毎朝決まった時間にやって来て「指定席」に座ります。オーダー確認はなし。やがて、おもむろに「いつもの」メニューが出てきます。

〇〇さんはパンの耳を取る、〇〇さんはゆで卵の殻を剥いてあげる、食後のお茶が昆布茶の人、薬を飲むから白湯の人：等々、なかなか細かい決まりがあるのだけれど、母は全部覚えていきます。

お客さんたちはコーヒーを飲みながら、世間話をしたり、新

聞を読んだりして、朝の時間を過ごします。会話の中でお互いの暮らしぶりを共有するし、毎日顔を合わせるから、もしも来なかったら「〇〇さんはどうした？」となる。そうして、誰かが困ったら他の誰かが助けられる、という関係が自然にできていました。

先日、「この夏までお店を開めるよ」と母から電話がありました。寂しきも残念さもありますが、今までお店を守ってきた母を誇らしく思います。お疲れ様でした、ゆっくり休んでね。

企画運営委員 藤本 博美

企画運営委員 小柳 明子